

◆TEKU・TEKU 2018★柴又帝釈天+立石呑んべ横丁企画（活動記録）◆

企画■時の忘れもの／葛飾柴又・立石界隈を歩く ～柴又帝釈天・矢切の渡し・立石呑んべ横丁～

日時■2018年11月3日（土・祝）13:00～18:00

コース■京成金町線・柴又駅＜集合＞～帝釈天参道商店街～帝釈天境内（帝釈堂彫刻ギャラリー、大客殿+遼溪園）～江戸川・矢切の渡し～山本亭（邸宅+庭園）＜休憩＞～寅さんサミット会場～京成柴又駅—（電車）—京成押上線・立石駅～仲見世商店街～喜多向観音～古代東海道・中川堤防～熊野神社+立石様～旧血液銀行跡～旧花街一帯～呑んべ横丁～京成立石駅＜解散＞

参加者■◎安藤 文+福原忠彦*、新井英子、安藤 泉、井手幸人、大竹 亮、小川美由紀、栗原 徹、重永真理子、清水俊哉、高橋 謙、橋本めぐみ、堀川雅代、森 正代、森田 寛、弓削孝浩
（以上16名、◎コーディネイター、*立石案内者、敬称略）

企画主旨■東京葛飾には、昔の風情が今に伝わる庶民的な街がいくつもあります。今回はまず、帝釈天の門前町で有名な柴又と、江戸川の矢切の渡しを訪ねます。当日開催中の「寅さんサミット2018」は、全国各地の寅さんゆかりの地と協力したご当地イベントです。後半の立石は、駅前のマーケットや飲み屋街に往時の面影が感じられる貴重な街です。しかしながら、鉄道高架事業が進行中で再開発も計画されていますので、呑んべ横丁など昭和戦後の雰囲気そのままの稀有な一角が失われてしまわないうちに探訪します。急速に秋が深まるこの時期に、つるべ落としの夕暮れにあと押しされて歩き、秋の夜長を大衆居酒屋で飲み語り合い、街の空気を実感しつつ、こうした昔の風情が残る街の将来について考えてみましょう。



柴又／帝釈天題経寺の山門



立石／南口の仲見世商店街

＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。
コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1◆柴又の町全体（今回歩いた範囲）について

評価●4.00 内訳●AAAAAABBBBBB

評価A●寅さんで有名だがそれだけではなく、帝釈天やその参道、背後の江戸川と矢切渡しなど、様々な要素がうまく融合し、とても魅力的な街になっている。

評価A●駅から参道商店街を経て帝釈天に至り、その背後に江戸川の矢切渡が控えている。庶民派一辺倒でなく老舗や邸宅もあり、観光地というよりも「昔の本物」が今も生きて機能している貴重な町に思える。

評価A●寅さんサミットに偶然当たり、天気も良く大当たりでした。

評価A●愛ある寅さんに多数遭遇しました。

評価A●映画によってイメージ化されたまちをうまく使いこなしている。

評価A●観光地としてコンパクトにまとまっていて良かった。

評価B●楽しく滞在しました。帝釈天境内、庭園、江戸川などの環境資源が集まって、心地よい観光地です。

評価B●柴又を訪れたことがなく、寅さん・帝釈天の賑やかなイメージしかありませんでした。帝釈天内の庭園や山本亭など少し趣の異なる一面も見ることで良かったです。

評価B●川魚を食させる大小の料亭がたくさんあるのに驚いた。そのような古くからの観光地に寅さんというスターが生まれたことで、活気のある一角が形成されていた。ただ、外部の観光客にとって柴又という地名は寅さんのイメージで造られた映画のセットのような地区のみを指しているように思える。帝釈天をちょっと離れた周辺もついでに巡ってきたら、当然ではあるけれど、普通の住宅街が広がっていた。

評価B●道幅が狭いためか、車が入れない道があり、歩行者は歩きやすいと思いました。

評価B●すっかり観光地化されてしまったのが良いとも言えるし、残念とも言える。昔のちょっとひなびた感じも良かった。

2-1◆柴又・帝釈天参道商店街

評価●4.17 内訳●AAAAAABBBBBB

評価A●観光地として賑わっているが、老舗が多いためか下品にならず、微妙に曲がった参道と適度なスケールの建物が連なって心地よい空間となっている。

評価A●イベント効果もあるかと思いますが、とても活気があり雰囲気がよかったです。駅から直線ではなく曲がった参道を進むうちに二天門が見えてくるという見せ方が、より期待をもたせていると思いました。

評価A●駅から帝釈天に至る門前町として、道の狭さ、緩やかなカーブ、低い建物、そして伝統ある老舗と、絶妙の要素がそろって実に魅力的な商店街になっている。喧噪と雑踏の中を歩くのも心地よい。

評価A●寅さんの映画のように大勢の人が行き交い、良かったです。

評価A●とにかく活気のあるところ。

評価A●観光化された参道。

評価A●参道にピッタリな店が多く、楽しい雰囲気だった。

評価B●道幅とお店の並びがちょうど良いです。

評価B●シャッター街とは無縁の商店街を久しぶりに見ました。

評価B●イベントのせいかなが多くて歩きづらかった。

評価B●普段は若干人が少ないので、元気がほしいところです。

評価B●歩いて楽しく、個々の店舗も昔ながらの雰囲気で良い。でも何か新しさが加わったらもっと良い。

2-2◆柴又・帝釈天境内（彫刻ギャラリー、大客殿 遼溪園） 評価●3.83 内訳●AAAAAAAABCCC

評価A●柴又の中心的存在。帝釈堂の素晴らしい彫刻を見るために、透明建築で覆って歩廊を増築した知恵に感心した（ヨーロッパ歴史建築の見学通路のよう）。奥の大客殿と遼溪園も立派で落ち着いた。

評価A●彫刻ギャラリー（動線、建物との接続、保全方法など）と庭園（遼溪園そのもの、大客殿、回廊の造り、南天の床柱など）は、とても見ごたえがあり、楽しめました。

評価A●無料で入れる区域を回ると有料区域にも入ってみたいくなる絶妙さ。彫刻を覆ったガラスの近代的デザインが美しく意外性がある、これも中に入りたくなる。

評価A●帝釈堂彫刻ギャラリーは素晴らしかった。

評価A●帝釈天にはお参りしたことはあったが、彫刻と庭園は今回初めてで、思った以上に素晴らしかった。

評価A●この境内を残してくださっていることに感謝です。よくある駐車場などにならず。また本当に彫刻と建物がとてもいいと思っています。

評価A●七五三の季節でもあり、ほのぼのとしていました。

評価A●広い境内でのんびりできる。

評価B●やけに近代的になってびっくり。

評価C●建物をガラスで覆うのはどうだろう。

評価C●建物等の歴史的背景についての案内板が、もっと設置されていても良いのではないのでしょうか。



柴又帝釈天へ向かう参道商店街をそぞろ歩く



帝釈天境内の大客殿から遼溪園を眺める

2-3◆柴又・山本亭（居宅+主庭）

評価●3.83 内訳●AAAAABBBBBBB

評価A●初めてでしたが、古い建物を体感できる場所は良い。こじんまりした感じも好感。

評価A●外観を楽しむ時間はありませんでしたが、応接室のステンドグラス、縁側上部の欄間など、ちょっとした箇所には和洋折衷の素敵なデザインを見ることができました。建物から見た庭園も素敵でした。

評価A●庭も建築も落ち着ける雰囲気。

評価A●庭を見ながら一休みするにはもってこい。

評価A●皆さんのいい休憩場所になって良かったです。

評価B●庶民的な柴又にこうした立派な大邸宅があり、それが保存公開されているのは貴重。しかも、庭園を眺めながら座敷でゆっくり休憩できるのが、まち歩きに疲れた頃合いにちょうど良かった。

評価B●空間的に庭との関係が地味にゆっくりと心地よい。

評価B●庭を鑑賞しながらゆったりお茶が飲めて良かった。

評価B●庭も美しいが、ゆったりとお茶を飲みながら寛げるのがいい。

評価B●お茶を飲みながらゆっくりできる場所があるのは嬉しい。

評価B●畳の上だと思わず長居…。

2-4◆江戸川・矢切の渡し風景

評価●2.83 内訳●AAABBBBBBCCCC

評価A●かつて多く存在した渡し船が今も残る貴重な風景。しかも、下町家屋がびっしり密集した東京側と、丘の緑や畑の風景が広がる千葉側の驚くべき対比が、味わい深い。まさに「時の忘れもの」である。

評価A●いま都内でこの風景が残っていることが素敵です。木が船着場の目印などいつの時代からでしょう？

評価A●数十メートルの川の渡し船は貴重な遺産。

評価B●江戸川の河川敷の広々とした空間と、人力でのんびり漕いでいる矢切の渡し。多くの人でにぎわう帝釈天や参道などとの対比が面白い。

評価B●川のそばで育ったので、ほっとする景色です。

評価B●落ち着いた景観だった。

評価B●観光客向けの仕様になっておらず、仰々しくないとこがよかったです。

評価B●今の時代では観光以外の目的が見つからない。

評価C●モーターはさすがに情緒がないけど、仕方ないですね。

評価C●もっとずっと川幅が広いものと思っていたので、ああ、なあんだ～、といった感じ。

評価C●将来に残すのであれば、修景が必要ではないでしょうか。

評価C●矢切の渡しだとわからず通りすぎてしまうかも。大々的な看板を掲げるのではなく、のどかな水辺に渡し船が見え、昔の賑わいを想像できる散策ルートがあったらいい。



柴又・山本亭の庭園に面した座敷で抹茶をいただく



江戸川・矢切の渡しに佇んで往時をしのぶ

3◆当日の柴又で特に印象的だった場所・出来事など

柴又駅の広場★飲食店などに囲まれた広場で、普通の駅前広場と一味違う。

柴又駅の広場★集合写真を撮っていて、寅さんが入ってくれたことがうれしかったです。

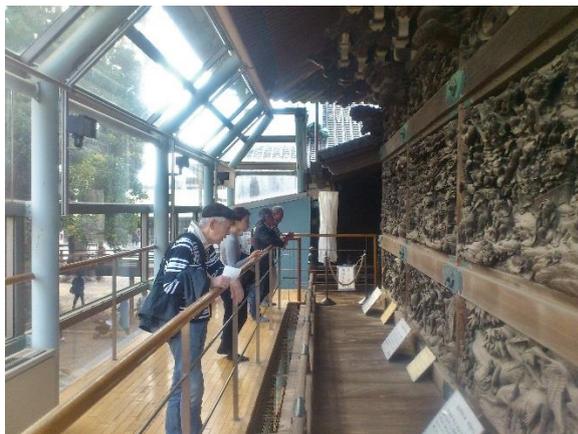
柴又駅すぐ右の喫茶店★店主が柴又の歴史や現状を語ってくれて良かった。

帝釈天参道★

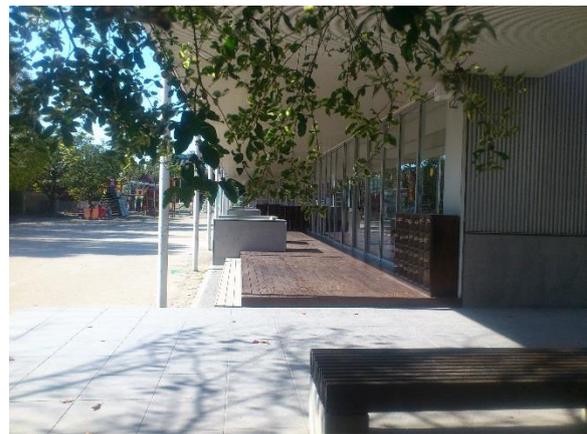
帝釈天参道★適度な喧騒のなか、雑踏に流されてそぞろ歩くのがとっても心地よい。両側の商店もいい。

高木屋★超有名な草団子。たまにイベントでも手に入るが、現地で買って家で食べるとオツなもの。

帝釈堂の彫刻★建物の全面がこれだけの彫刻で覆われているのは迫力満点。
 帝釈堂彫刻ギャラリー★あの高さである彫刻を鑑賞できることは、本当に素晴らしいと思いました。
 帝釈堂彫刻ギャラリー★ガラスで（帝釈堂の）彫刻が保存されているのは珍しい。
 帝釈堂彫刻ギャラリー★伝統的木造建築のお寺と堂を覆うガラス建築という異質なものが調和している。
 帝釈堂彫刻ギャラリー★彫刻の保護と鑑賞者の利便を両立させたガラスの回廊には驚いた。まるでヨーロッパの歴史建築に増築している見学通路のようだが、細部が建物本体と絶妙に納まっている。
 帝釈天境内の渡り廊下★帝釈堂彫刻ギャラリーと奥の大客殿 邃溪園を中空でつなぐ木造回廊がユニーク。
 るんぴに一幼稚園★子供がいたら通わせたい自由な空間で好きです。
 るんぴに一幼稚園★ヒューマンな感じの実にセンスのいい空間デザイン。
 江戸川の土手★高い建物がなくて開放感が良いです。
 土手と江戸川★変らない風景にホッとしました。
 江戸川両岸の風景★家屋が密集した東京下町と、丘の森や畑が見える千葉郊外の風景の際立つ対比が印象的。
 老舗川甚★開業寛政年間という歴史ある川魚料理の店。注文したものと違うものが出てきたのはご愛嬌だが、結果的に色々料理が味わえて良かった。
 寅さんサミット★会場を歩き、柴又が地域振興のために徹底的に映画を活用していることが判った。
 寅さんサミット★寅さんの自然発生的な現れ方、それぞれの寅さんが個性的。
 何人もの寅さん★全国から集まった寅さんが街を歩いているのは楽しい。
 何人もの寅さん★愛ある寅さんに多数遭遇しました。電車から哀愁を漂わせて懐かしそうに降りる寅さん、外人に寅さんの格好をさせてあげる寅さん、愛があるなあと思いました。
 全体★イベントだと人が多い！ということ。



帝釈堂彫刻ギャラリーはガラス建築で覆われている



るんぴに一幼稚園には心地よさが感じられる

4◆立石の町全体（今回歩いた範囲）について

評価●3.00 内訳●AAAABBBBCCCC

評価A●人間が社会制度や市場経済の歯車になってしまうのではなく、人間が人間らしく生きるための場として、この町はあるのだ。立石様を埋め込ませるほどの長い歴史を経て、今もこの町を必要としている人のための町である。再開発により、この町でなくてもいい人の街に変貌するのを何より憂いたい。
 評価A●土地の記憶がまだ色濃く残っているエリアだなあと感じました。一人では決して立ち入らない場所を歩けたのは面白かった。
 評価A●初めて立石に足を踏み入れました。大分お店が閉まったり、自転車置場などに変わったりしていたため、もっと賑わっていた頃にも訪れたかったです。
 評価A●この町は削られても、頑張り続けるのは立石様？でしょうか？ 元気でいてほしいです。
 評価B●昭和のイメージのいい雰囲気が残る街だが、京成線の立体化と駅前の再開発で大きく変わりつつある。
 評価B●僕の思っていた立石らしさは感じられましたが、らしさが壊れつつある寂しさも感じました。
 評価B●駅前が変貌しつつあり、やや残念。
 評価C●京成線の駅に良く見られる町並みでした。千葉に入っても同じような感じの駅があります。
 評価C●微妙です。現在の立石は魅力的ですが、近く再開発される将来の立石はどのようなのでしょうか。
 評価C●昔ながらの人と人の交流やぬくもりがあるとか、商店街に活気があるとかの理由で「良い」とはできない。現状が地震や火災に弱い街であることは事実なので、それを加味すると「普通」というところか。
 評価B&D●昭和レトロの懐かしさ、だが、このままで良いとは思えない。評価は「普通」ではなくて「良い」と「悪い」の混在、かつ「良い」と「悪い」の両面を感じる。

5-1 ◆立石駅南口・仲見世商店街

評価●3.83 内訳●AAAAAABBBBBBC

- 評価A●駅前商店街の横手に庶民的な一帯が広がっている。往時のモダンな店舗と生鮮市場、そして裏側の飲み屋街という多様性もいい。戦後闇市の自然発生でなく、共同化事業で造られたと聞いてびっくり。
- 評価A●非常に早い時期の共同化事業で造られた商店街ということで「非常に良い」。
- 評価A●古くて、昔の近所の商店街のようで、懐かしかったです。
- 評価A●買い物しやすそうです。物も安かった。
- 評価B●できた当時は最新の商業施設と思われ、今見てもなかなかキレイにできている。駅の近くは賑わっているが、反対側は空き店舗が多いのが残念。
- 評価B●庶民的で味がある商店街。
- 評価B●「仲見世」の由来を初めて知りました。
- 評価B●お惣菜屋など魅力的だが、もう少し清潔実感？がほしい気がする。
- 評価B●大分寂しくなりましたが、お惣菜屋等に並ぶ商品は魅力的でした。
- 評価C●再開発での立ち退きもあり空き店舗が目についた。

5-2 ◆立石様（地名の由来となった奇石）

評価●3.50 内訳●AAAABBBBBBCC

- 評価A●古代東海道（北区西ヶ原の豊島郡衛と市川国府台の下総国府を結ぶ）以来のこの町の歴史を実証する貴重な存在。しかも、行ってもよく見えないところが神秘的（当日もう暗かったし）！
- 評価A●どうしてこの地が「立石」と言われるかがわかった。
- 評価A●見た目が衝撃的でした。暖かくなると伸びるといふ迷信が面白かったです。
- 評価A●大きな期待を見事に裏切ってくれた。
- 評価B●現在は“これ？”って言われてしまう状況ですが、代々伝えられて残っているあたりが昔話的な世界のように、都内の街に存在しているのがいいです。
- 評価B●駅のホームにレプリカがあるほど地域にとって大切であり歴史的な場所ということと、単にモノとして見た場合とのズレが大きく（個人的見解）、何とも言えない味わいを感じました。
- 評価B●心地よい散策ルートのポイントとなる可能性に期待。
- 評価B●立石には何回も来ているが、初めて見た。
- 評価B●あそこまで見えないものとは（江戸名所図会にも書かれていました）。
- 評価C●立石の地名の由来としては重要だと思うが、今となっては何だかよくわからない。
- 評価C●暗くてよく見えなかったと思いますが、不思議な場所でした。



立石・仲見世商店街の庶民的な風情を味わう



立石の地名の由来となった立石様を探し当てる

5-3 ◆立石駅北口・旧花街一帯

評価●2.66 内訳●AAABBBBBBCCDD

- 評価A●人に見られることなく事を成したいという客の思いと、入ってきた獲物は掴んで離さないぞという店の思いの両方を、見事に叶えるように造られた見通しの効かない幅の狭い路地が、凄い。
- 評価A●路地が狭く見通せず、逃げやすいつくりになっているという花街としての空間構成がとても興味深い。
- 評価A●昭和がそのまま残っているのですね。消失するのは残念です（訪ねた時間が夕闇時で好印象です）。
- 評価B●若い子が家のお金の為に頑張っていた。そして病気になったら田舎の家族も引き受けてくれず、立石の人たちが野菜を持って行ったりしてフォローしていた、という話を以前聞きました。
- 評価B●歴史を感じる。
- 評価B●貴重な昭和遺産。

評価B●福原さんに色々教えて頂き、勉強になりました。

評価C●夜は少し怖いです（屋間も分かりません）。

評価D●ここで当時働いていた女性たちの思いは？と考えると複雑。ミステリアスでラビリンスな空間、という特性を活かすことを考えた時、女性にとって負の歴史を突き抜ける力が必要な気がするが、黄金町でのアートのような。

評価D●ここはダメでした。悪場所としての雰囲気は今も強く残り、居心地なじめず楽しめませんでした。

5-4◆立石駅北口・呑んべ横丁

評価●3.50 内訳●AAAAABBBBBBCC

評価A●狭い狭いところに潜り込んでうたかたの夢心地の酔いに浸りたいという酒飲みの愚かだけども憎めない心情に、心憎いばかりに癒えてくれている。

評価A●サラリーマンに苦労人のママたちが明るく元気に酒を出していた、そんな風景だったのでしょうか。今は風景として見ることしかできないですが。

評価A●残されたお店が頑張っている様子が印象的でした。細い路地の怪しげな雰囲気が、いい意味で立石らしかったです。お店の閉店時間が早いことは、意外でした。

評価A●立石を代表する飲み屋街だが、よそ者には近寄りたがたい雰囲気があった。今回、三次会で狭いカウンターのお店に（4人で）入ってみて、そのあまりの居心地の良さにしみじみと幸せな気持ちになった。

評価A●昭和がそのまま残っているのですね。消失するのは残念です（訪ねた時間が夕闇時で好印象です）。

評価B●立石を象徴するエリアだったが、京成線の立体化で半分取り壊されてしまったのがとても残念。

評価B●残されてしまった感じが少し痛々しい。

評価B●無くなりつつあり寂しい。

評価B●取り壊しが進んでいる。最盛期に来てみたかった。

評価C●飲みに行かなかったので多くは語れません。

評価B&D●飲み屋街の空間として魅力的だが、お手洗いが心配（実感）。いずれ建て替えが必要。地元の常連さんは現状をどう思っているのか、聞いてみたい。



立石・旧花街の狭い路地に奥深く侵入する



立石・呑んべ横丁に誘われて足を踏み入れる

6◆当日の立石で特に印象的だった場所・出来事など

仲見世商店街★駅南口のお惣菜屋さんをはじめおなじみの風景だが、もうすぐ再開されるとは残念至極。

喜多向観音★地元の人が大事にしていることがわかる。

帝釈天道標★こうした旧街道の道標がメンテナンスされているかどうかで地域のエネルギーが判ると解説していただき（安藤さん）、納得しました。

古代東海道★立石の歴史の古さと実感するとともに、今も道筋が残っていることに改めて感慨を憶えた。

川べりの道★昔話と土地をつなげると、とてもものどかでいい土地だったのだろうという気がします。

立石熊野神社★五角形の敷地で結界をつくっているとは驚き。

立石様★こんなところに立石の由来があったのか！びっくりしました。

立石様★あまりの小ささに衝撃を受けました。立石駅ホームにあったレプリカからも、立石さまを大事にしている様子を垣間見ることができました。

立石様★高まる期待と迫る夕闇、絶妙のタイミングでようやくたどり着いてみると……？！

立石様★史跡のはずなのに、ポツンと唐突にあるのはある意味インパクト大。江戸名所図会に確かに載っていましたが、そそり立つという感じではなかったようです。それでも土地の由来になるとは恐るべし！

税務署前元血液銀行★ここも負の歴史があると認識しました。ミステリアスな町には負の歴史があるのだと思いました。負の歴史という表現は適切でないかも、と思いながら。

税務署前元血液銀行★歴史的背景の一端を知る機会となりました。

税務署前元血液銀行★ほんの少し昔のことだけに、生々しいな、と。

北口の鳥房★若鳥唐揚げを予約してお土産に買ってかえりました。美味しかった！！

北口の鳥房★相変わらず土産の鳥がおいしかった。

狭い路地★玉の井を思い出させる。

旧カフェ一跡★都内でも少なくなってきた貴重な建物。

しらかわ★呑んべ横丁で入った、おばちゃんが一人でやっている立石らしい店。

しらかわ★思い切って入ってみるととても居心地がよい。この町の秘密（本質）がわかった気がした。

飲み屋のおばさん★みなハッキリ物を言うので気持ちがいい。

語りべ福原さん★やはり街を知る語りべ、さすがでした。ありがとうございました。



北口の鳥房には今も再開反対の幟がはためく



呑んべ横丁に人は思わず引き込まれてしまう

7 ■立石の町では大規模な再開発が計画されていますが、あなたは立石の町が将来どうなってほしいですか？

また、そのためにはどのようなまちづくりが必要でしょうか？

●京成線の立体化と駅北口の再開発はもう止まらないので、せめて南口は立石らしさを残したい。仲見世商店街を吉祥寺のハモニカ横丁のようにうまく残すことで、街全体の魅力を高める方法があると思う。

●地域特性は異なるけれど、吉祥寺のように、建築計画としての解決法はあるのだと思う。地域のまちづくりについて本気で議論すること。再開発に賛成反対ではなく。

●人を引きつける、飲み屋街、鳥房のような店舗など、立石ならではの魅力をうまく継承されてほしい。

●どこにでもあるような風景になってしまうのは、大変もったいないので、何らかの形で立石らしさを残してほしいです。ただ、今の雰囲気を組み入れた計画は難しいと思いますので、店・住民との話し合いで、どこを落としどころにするかが課題だと思います。

●ヨソモノから見れば、立石は再開発後に顔のないまちになりそうで残念です。今回の再開発決定に至るまでに、地権者だけでなく、地元住民とどの程度話し合いを重ねたのか気になるところです。

●地元の間人もかなり入って計画をまとめていくことができたらいい。次世代を考えた計画をしたいと思います。葛飾区は三世代がともに住む方が多いです。何代も住み続ける街は、生き続ける街として存在します（おじいちゃんは孫のために公園を掃除したりしています）。住民が入って生きた街にすることが大事だと思います。

●何代も住んでいる方が多そうなので、地元商店が主役になる街が似合うのでしょうか。でも時代を考えると難しい。どのような？ 単純に呑んべ横丁を残したいのなら、ラーメン博物館のようにテーマパーク的に再現するとか？

●立石の飲食店はたまに利用させてもらうのだが、無くなっていくのは寂しい。新しい施設が出来たら、私が行くことはもうない。難しい。

●難しいですね。

●老朽化が進んでいるので、建物や街の整備は必要だと思います。

●ラビリンス性は残してほしいですが、防災対策はしっかりとすべきなのでしょう。下町にありがちな細い道はやはり危険であるように思います。

●再開発で「街の形態」は近代的に変わっても、長い間かけて培われた「街の精神」を引き継ぐこと。この街に生き、この街を愛し、この街を必要としてきた人々のために。そのための計画を専門家は必死に検討すべき。

8 ■近年各地の都市再生や住宅地の更新では、経済効率が優先されて画一的な街の姿になっていくように見えます。その街が培ってきた仕事や生活の場としての役割を活かした街の再生を図るには、どうすればいいでしょうか。このことについて、あなたのお考えをお聞かせください。

●「グローバリズムの波が世界中に押し寄せているので、経済効率性を優先せざるをえない。また、少子高齢化・人口減少で日本の国力は徐々に衰退する。しかし、だからこそ日本は個性的な街を残し、後世に遺産として伝えて行こう。」という合意形成が、市民、国民に必要。

●基本的に開発は経済効率を優先しないと成立しない。画一的な街になるのは、採算ぎりぎりでも事業を成立させているため。リノベーションのように投資を抑えれば余裕ができるので、個性的なまちづくりの可能がでてくるはず。

●効率的な街が住みやすい街であるとは限らない。歩いて楽しい街が増えてくれるとうれしいです。

●ケセラセラの世界なのでしょうが、昔は家ができて、だんだん隣ができてといった形で町は形成された感じだと思いますが、今はどちらかといえば不動産重視で、先に数字を計算された箱が出来てしまいます。残念ながら使い捨ての箱の街にされかかっているのは、計画する人の故郷ではないから？ 数字以外の再生に力があるかと思しますので、それをまとめるチームを作る（養成）していく必要があるように思います。駅周辺はちゃんと公がやっているといわれそうですが、生きたまちにするには町の中の声拾い、参加を求める体制が必要だと思います（ドラマの様ですが）。時間が掛かるのですが、昔ほかで参加したまちづくりは、先生たちがいる間は元気だけど、少したっていくと外部主導だから弱ってしまっていました。

●そもそも制度について：市街地再開発事業は容積率の積み上げ過ぎ。駅前の密集市街地の改善手法として、事業を成り立たせるための容積アップ。例えば立石では、呑んべ横丁街区は低容積率に抑え、その分、高層化する街区に移転するという発想もできないくらい容積率が札束になっている？ いま私は、地権者の方々が瞬間風速的な容積率という札束に惑わされず、まちの将来を本気で考えて欲しいと思います。

●これまた難しいですね。商店がテナント貸し、あるいは再開発でどこも同じような店ばかりになってしまうのはまったく面白くありませんが、それを望む層もあるのでしょうか。またそれによって新しい層の人たちが住むことを良しと思う人もいます。むしろ土地の記憶を消したいと思う人もいますでしょう。「役割」というのが何を指すかによって活かし方も変るし。勉強会とかイベントを重ねて啓蒙するとか、そんなことしか思いつきません。

●とても難しいことだと思います。現状・未来の役割について、外部・内部の視点・意見を出し切って、可能な限り吸い上げ・融合するしかないのでしょうか。。。

●再開発事業者と地域の事業者等が将来どうしたいかを話し合い、できるだけ同じ絵柄を描けるようにすることが重要だと思います。

●下見に来た時、公共施設についての反対運動が行われていました。その街の納得のいくやり方で、街の再生を図ることで、街の個性が出てくるのではないのでしょうか。

●市場原理による開発にゆだねると「経済的価値を最大限に実現」するために事業内容が画一化・均質化し、街の持ち味を活かすのは難しい。しかし、開発を抑制すると住環境や防災性の改善が進みにくい。開発を上手く誘導することが解決の鍵である。代官山や銀座ルールのように地元の合意による計画協議は重要であるし、八潮の地域特性基準のように開発地の「公共的価値を最大限に実現」させる仕組みも有効である。こうした努力によって、街の持ち味の「精神」を保ちつつ、新しい街の「形態」に変わっていくことが可能となろう。



京成押上線には通勤特急や空港快速が頻発する



北口再開発事業でこうした風景も消えてゆく

9 ■ 今回の企画に参加しての感想など

- 立石駅北口の再開発事業について調べたところ、今年度末に組合設立認可予定のようです。呑んべ横丁も旧花街も、無くなる前になんとか見ることができました。安藤さん、ありがとうございました。(k/t)
- 立石では、福原さんに色々とお話をいただき、とても楽しめました。手前味噌ですが、葛飾と立石とそれぞれ下見に行った姉の苦勞が報われたと思います。(a/i)
- またいろんな人との街歩きは楽しいことが改めて実感しました。(a/a)
- 久しぶりに参加させていただきましたが、お天気にも恵まれ、初の柴又・立石の散策を大変楽しく有意義に行うことができました。計画・催行いただいた方々に感謝申し上げます。(h/m)
- 安藤さんのおかげで、一人では入店しないだろう「川甚」で食事ができました。ありがとうございました。福原さんのおかげで「立石」に関し以前から抱いていた色々な疑問が解けました。ありがとうございました。大竹さん、今回のお誘いをありがとうございました。一人散歩と異なり大変勉強になりました。(t/k)
- 柴又、立石ともに面白い企画で、参加して良かったです。企画・運営及び案内の皆様にお礼申し上げます。今回、これまで知らなかった葛飾区の素顔を覗いた感があり、特に立石では強烈な印象を受けました。その意味では立石での時間がもう少し長くても良かったように思いました。ご参考までに「東京人」12月増刊号は「特集／葛飾柴又を楽しむ本」だそうです。(o/m)
- 下町企画はやっぱり面白いです。(y/t)
- 久しぶりの柴又、そして初めての立石はディープで興味深かったです。7年ぶりくらいの参加でしたが無事に歩き通すことができたので、心の中でバンザイしています。(a/e)
- 立石は一度行って見たいまちでした。確かに立石の魅力は感じられましたが、やはり呑んべ横丁などが元気なときに来るべきだったと、反省・・・(i/y)
- 楽しく、興味深く、かつ今後のまちの姿を考えさせ、評価に悩みました。(s/m)
- 以前より懸案だった柴又・立石企画をようやく実現できました。これも立石に縁の深い安藤さんのおかげです。本当にありがとうございます。また、福原さんのお話とご案内で、とっってもリアルで充実したまち歩きになりました。深く感謝します。実は私自身、恥ずかしいことに柴又への訪問は初めてでした。立石は旧街道ウオークの古代東海道企画で2008年12月に通りましたが(22名参加、安藤さんの案内で昼食休憩、打ち上げも立石に戻って!), その後しばしば青砥の葛飾シンフォニーヒルズのコンサート帰りに立ち寄って、飲み屋街が消えそうになるのを目の当たりにし、企画を急ぎました。観光地になった柴又、再開発される立石、いずれも市場経済の中での動きなのでしょうが、それぞれ変貌してゆく際に、何を大切に継承し次代に伝えるべきか、本当に考えさせられる一日でした。(o/r)



柴又駅前で寅さんを囲んで